

精進料理の「精進」とはどういう意味でしょうか。それは、「修行にはげむこと、懸命に努力すること」という意味です。ですから、精進料理というのは、修行のための食事という事です。

その食事は、時代や地域によってそのあり方を変えてきています。

二千五百年前のインド、お釈迦様の時代の仏教教団は、一切の生産活動から離れていましたから、食べるものは、托鉢たくはつによっていただいていたのです。人々からいただいたものだけで、生活をしていたのです。

いただいたものはありがたく食べるべきものですから、その中にお肉が入っていたとしても、それは食べて良かったのです。ただし、いのちあるものを殺めない、という不殺生戒ふせっしょうかいがありますので、その家の「残り物」に限って、という条件がつきます。

時代がくんだり、中国に仏教が伝わってからは、どうでしょうか。

中国に伝わったのは、大乗だいじょう仏教です。大乘仏教では、いのちあるものを殺めない、特に食事のうえで不殺生戒を徹底する考えがありました。ですので、お肉を食べることは戒められるようになりました。

お肉を食べないことを徹底した他、中国での仏教の大きな変化は、主に禅宗において顕著だったのですが、僧侶の生産活動がなされるようになったことです。暖かい気候のインドにおいては可能だった托鉢のみの食事の確保が、寒冷地である中国では難しかったという理由もあったでしょう。田畑を耕し、自分たちの食材を自らつくるようになり、やがて、調理も行うよう

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

になります。修行道場の中に典座^{てんぞ}という役職を置き、修行僧の食事を調理するようになりました。

このように、仏教の食に対する考え方は、変わってきたのですが、いずれも根本にあるものは、「いのちあるものをいただく」ということでしょう。いのちあるものをいただかなければ、私たちはいのちを保つことはできません。肉や魚のみならず、野菜もいのちあるものです。

ですから、自らの行いが他のいのちあるものをいただくに値するのを思いながら、食事をいただきたいものです。

— 終 —